

授業形態	講義	科目名	グリム童話の中の女性たち	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/人文科学科目)		受講者数	約 110 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>講義形式だが、毎回回までに読んでおくプリントなどの課題を与え、それに関する様々な質問を投げかけ、挙手して答えるという双方向授業を展開している。発表するたびにプレゼン点を与えることにする(シラバスにも記入)と、積極的に発言する学生が増えた。</p> <p>受講人数が多いので、挙手しても当たらない学生が苦情を言うことがある。時々すでに教えたことを確認する平易な質問をし、一度も発言していない人だけが答える権利があるよう配慮した。</p> <p>幅広い教養度を問う質問も敢えてするようにしている。答えることができない学生からクレームがつくことがあるが、大学とはテキストだけでなく、多くの本を読んで幅広い教養を身に着けることが求められるところであることを説明した。</p> <p>テキストやプリントだけでなく、パワーポイントや写真を使って映像を見せながら質問すると、学生の集中度や理解度がより増したと思う。</p>				
取組みの効果	<p>発言者にマイクを回す関係上、前の方に座っている学生が優先権を持つことを伝えると、後ろに座っていた学生が前の方に移動して、前で熱心に授業参加するという状態になり、質問にいち早く答えようとする学生が増えた。</p> <p>しっかり予習してこないと挙手できないので、課題の本だけでなく関連文献も読んできて、しっかり勉強してくる学生が増えた。</p> <p>内容を把握して発言しないと授業についていけないので、私語も内職もなく全員担当者の講義に熱心に耳を傾け、他の学生の意見もしっかり聞こうようになった。</p>				
今後の課題	<p>内気で人前で発言できない学生が必ず数名いる。そのような学生にも発言を促すための工夫が必要である。方法としては、正解でなくても発言しただけで、参加点を少し与えるという方法を採用するつもりである。また、質問内容がテキストから離れ一般教養を問うものになったとき、挙手が同じメンバーに限定されることに対して、学生から不満の声が挙がる。それに対して、高校と異なり、大学では習ったことだけでなく、幅広い教養が問われる。普段から多くの本を読んで幅広い知識と教養を身につけたいと説明するつもりだ。</p>				

授業形態	講義	科目名	先端芸術表現	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群／人文科学科目)		受講者数	約 50 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(最新情報を速やかに反映させる／高画質の画像・動画をできるだけ多く提示)				
どのような方法を 取り入れたか	<p>難解に捉えられがちな現代美術の考え方や多様な表現手法に触れ、その実制作にもあたることで、理解を深めていく授業。限られた時間内で効率的に伝え、今動いている社会と密接な関係にある現代美術をよりリアルに感じてもらうために、フルハイビジョンの高画質プロジェクター（理想は4K画質以上・・・）を用いた教材を多く用意している。教員自らが取材した最新作品もできるだけ紹介し、講義そして作品制作につなげようとしている。教室のコンセプトそのものが「最良の鑑賞環境と創作環境の融合」でもあり、バーチャルとはいえ現実に迫る画質で鑑賞し、その新鮮なイメージを保ったまま創作活動にあたることができる。授業進捗状況に合わせて随時この2点を往來できることのメリットは大きい。またこれにより、大人数であっても効果が期待できる。</p>				
取組みの効果	<p>良くも悪くもデジタルの画面を見つめて情報を得ることに慣れているせいもあって、言葉や図では理解に時間がかかる複雑な内容も、〈鑑賞〉〈講義〉〈制作〉を横断的に動くことで楽しみながら理解を深めているといえる。それは、提出された作品から見てとれる。</p>				
今後の課題	<p>多様な学生が集まる共通教育科目であり、理解度はともかく作品制作における各自の視点を尊重しようとする、90分授業を2回連続で行うような手法に思い至る。大学全体の枠組みの中での工夫は凝らしているつもりだが、やはり実技（実制作）が過半数である授業が、毎回90分で終わってしまうことが足かせとなっている。やむを得ず、実際の作品制作・仕上げは宿題として期限を設けて提出としているが、本来は教室で時間内に制作指導を尽くしたいところ。</p>				

授業形態	講義	科目名	斜めからみる西洋音楽	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/人文科学科目)		受講者数	約 70 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>【独自のワークシートの導入】</p> <p>本講義の目標は、いわゆる知識の習得ではなく、各講義を通じて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽やその変遷について、多様なとらえ方ができることを学ぶ。 2. それを踏まえ、西洋音楽のさまざまな楽曲について、総合的な視点から味わい考えることができる。 <p>という点にある。この目標のために、各授業の最後に、ミニレポートを書かせ(宿題課題を含む)、かつ授業の最終回に全体を通したレポートを書かせる課題を実施している。しかし、こうした方法だけでは、授業を漫然と聞いたり、居眠り・私語などを誘発するおそれもある。そこで、各回の授業内容をメモする部分 (a) と、ミニレポート部分 (b) を一体化したワークシート冊子を作成・配布し、(1) 必ず授業中の講義内容を (a) にメモするよう指示した上、(2) メモの情報を参照しないと書けないようなミニ・レポートや宿題課題を課し、さらに、(3) 授業全体が終了した後、冊子を回収し、メモ部分への記載内容と量も含めて全体を採点対象とする、等の措置により、授業内容への意識の集中や関心を引き出すよう工夫した。</p> <p>【内容とミニレポート課題の例】</p> <p>「第6回 交響曲がやってきた一大編成器楽音楽の形成と社会史」 (課題) 他の多くの民族音楽が、演奏規模を変えないまま傳承されてきたことと比較すると、ヨーロッパの人々が「より大きな音」を求めていったことは、極めて特異な現象である。なぜ彼らは、ここまで「大きな音」を求め続けたのか？ 授業内容を踏まえて、その理由を考えなさい。</p>				
取り組みの効果	<p>(1) 上例のように、各回の授業には必ず1つの音楽史・音楽学的トピックがあり、しかもミニ・レポート課題がそのトピックに関連づけられているため、学生にとって何が授業の焦点なのかを把握しやすいようである。何件かの授業ノートを確認しても、パワーポイント・スライドの内容を上手にメモ・要約できている。</p> <p>(2) スライド以外、授業資料は(原則的に)配布しないことから、後の課題のために積極的に講義内容のメモをとる姿が見られる。従って、私語・居眠り等は見受けられない。</p> <p>(3) 音楽素材の視聴中、音楽の特徴や印象などを自主的に記録する学生がいたり(第5回)、あるいは紹介された様々な楽器の特徴を詳細なイラストとして記録する学生がいたり(第3回)と、「総合的に音楽を味わう」という目標も達成できつつあるようである。</p>				
今後の課題	<p>・この授業では、音楽素材の試聴を伴うため、とにかく私語を誘発させないことが肝要である。従って、授業中どうしても、自由にディスカッションする雰囲気をもっていけない、といううらみがある。</p> <p>・また、受講人数の関係で、ワークシートを毎回回収し、それを元にコメントするといった相互作用的なやりとりにもまだ発展させにくい、という問題が残る。</p>				

授業形態	講義	科目名	心理学入門	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/人文科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>事前課題を課し、それを翌週のグループワークで利用した。</p> <p>1. 事前課題：あるキーワードを示し、それに関連すると思われる「単語」を各自で調べてくるように促した。</p> <p>2. グループワーク：授業中に、各自が調べてきた単語をグループで持ち寄った。その際、なぜその単語を選んだのかをグループのメンバーに説明することとした。最後に、グループごとに、カラー用紙 1 枚に単語を清書した。</p> <p>3. クラスワーク：他のグループが集めた単語と、情報交換した。</p> <p>4. まとめ：いくつかのグループの清書用紙をスライドで提示し、集められた単語についてキーワードに関連付けながら解説を行った。</p>				
取組みの効果	<p>事前課題について、「単語を調べてくるだけであるので、負担が少なかったのが良かった」という意見や、「グループやクラスでまとめる際に自分では調べられなかった単語を聞いたことが良かった」という意見が聞かれた。</p> <p>単にキーワードを説明するよりも、自分で調べて、グループやクラスで共有するほうが、より理解度が増したと考えられる。</p>				
今後の課題	<p>前の週に欠席していたなどの理由で事前課題をしていない学生がいるグループは、多くの場合、単語数が他のグループよりも少なくなる。このため、作業が早く終わり時間が余るなど、物足りなさを感じているようにみえた時もあった。</p> <p>この点を改善するために、ガイダンス時や数回前の授業時に事前課題を提示しておくなどして、グループごとの単語数やそれに伴う作業時間をできる限り同じにする工夫が必要だと思われる。</p>				

授業形態	実習	科目名	合唱表現	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群／人文科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	合唱表現の授業は、月曜3限音楽館ホールで行っています。曲は、ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの3声部ですが、最初は自分のパートが歌えるようにする譜読みを行います。この時立って歌唱します。また授業の終わりに、舞台上で、その授業時間に習得した曲を歌います。				
取組みの効果	この起立、着席の運動動作を入れることで、眠気を退け、歌唱に集中でき、授業に変化が付きます。ホールの舞台での歌唱は、歌う楽しさを増長するようです。				
今後の課題	短時間で曲を歌唱できるソルフェージュ力を高め、自然で伸びやかな発声で楽しく合唱できること。				

授業形態	講義	科目名	消費者生活論	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/社会科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>レジュメを用意し、板書(スライド)を写す時間を減らし、説明を聞く時間を増やすようにしています。以前、スライドの字を大きくしてほしい、スライドの切り替えをもっとゆっくりしてほしいという意見が学生からありました。スライドの字を大きくし、次のスライドを映す前に必ず「まだ写していない人?」と確認するようにしています。早く書き終えた学生もいるので、次のスライドを写すまで大事なポイントを伝えたり、別の情報を伝えるようにしています。</p> <p>発表する際に所属と名前を確認し、発表点として加点しています。発表をすることが苦手な学生もいるため、ノート提出の際に授業内容で勉強になった点や板書以外のメモなども加点するようにしています。</p> <p>授業の中で消費生活におけるプチ情報として、テストに出題する内容ではないが、生きていく上またキャリアを考えるうえで知っておいてほしい情報を毎回伝えるようにしています。</p> <p>新聞の切り抜き(クリッピング)を宿題にしており、授業への関心を高めるようにしています。</p> <p>授業を欠席(公欠含む)をした日のノートの貸し出しをしています。</p>				
取り組みの効果	<p>説明を聞く時間を増やすことで、学生自身が勉強になると思う点などをメモする習慣ができてきたようです。プチ情報を聞いて、普段の生活に取り入れるようになったなどの意見を聞いています。</p> <p>クリッピングの宿題をしているうちに、新聞を読むだけでなく、ニュースを見るようになったという意見を聞いています。</p>				
今後の課題	100人の学生全員に目が行き届いていないので、きめ細やかな授業ができるように考えていきたいと思っています。				

授業形態	講義	科目名	世界の大学事情	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/社会科学科目)		受講者数	約 80 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>専攻も学年も異なる共通教育であるので、自分たちが属し、学んでいる「大学」というものにも興味をもってもらい、今日において大学やそこで学ぶ大学生にどのような課題が突きつけられているのかを自覚してもらうことを目的とする授業である。よって、次のような授業形態をとった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ってもらうため、視覚から訴える（各国の大学の写真、統計データなどの提示）・・・PPTと印刷資料の提示 ・大学の歴史や現状などについて知っていることを聞き出す（世界史や新聞などの知識や情報） ・統計データや各国間の比較から、その差異や原因、課題などの類推を促す・・・自分たちの生活に関連付けて 				
取り組みの効果	<p>大学に関する写真や一部の数値的データの比較には興味深そうに見入っており、興味深いという授業の感想やテストの回答にも表れていたように思うが、なぜそうなったのか、差異の原因は何なのかを自ら行うようになったかどうかは分からない。（やはり学生にとっては少なからず抽象的なトピックとして捉えられているように思う。）</p>				
今後の課題	<p>大学の歴史や現状に関する知識は乏しい。日本史や世界史などで習ったであろう知識も持たない者が多く、「世界の大学事情」ということで、漠然と興味をもって受講したのであるが、基本的な知識は欠けている。</p> <p>こうした中、授業として多様な知識や情報を提示して興味を持ってもらうことに主眼を置くようになった。予備知識もないまま双方向の授業は難しい。</p> <p>予備知識がない大人数の授業で、グループ学習や双方向の授業はかなりの力量が必要となる。ただ可能性を探っていくならば、授業の範囲をもっと狭め、トピックを絞り込んでいく、あるいは誰でも参加できる話題の設定しかないだろう。そのような場合、十分な知識や情報が提示できなくなる可能性もある。</p>				

授業形態	講義	科目名	障がい者と障害の理解	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/社会科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法 を取り入れたか	<p>当該科目は、主にリハビリテーション医学の視点で障害原因と障がい者を、WHO 国際障害分類に基づいて、客観的に理解してもらうことで、障がい者に対する正しい理解を、学生に教授することを目的として開講しました。</p> <p>しかし、この講義を理解するには、障害の病態及び基礎的医学知識を必要とすることから、これらの専門教育を受けていない、共通教育受講学生に医学的専門知識を求めると自体が誤りであるとの認識を持ちつつも、大学生であるから理解可能との思い込みが先行し、開講しました。それでも前期の受講生は 30 余名の状況でしたが、後期からは受講生が激減し、10 余名にまで落ち込みました。</p> <p>この状況を改善し、難解であるとの講義から脱却する対策を考えた結果、医学的専門知識を必要としないで、講義内容の質的レベルを担保した講義を提供する方法として、「記録映像」を取り入れる講義内容に変更を試みました。</p> <p>多様な障害の解説と、その障がい者の実生活を収録した、教育映像及び教員自身が有する患者記録画像等の資料を用いる授業に、変更を試みました。現在も、この形式で授業を継続しています。</p>				
取り組みの効果	<p>現在の受講学生は、1 クラス 100 余名となり（この数値は、必ずしも講義内容の質的担保の証とは限りませんが）、学生レポートにおいて、障がい者と障害の関係が、よく理解することができたとの記述が、多くを占めています。</p>				
今後の課題	<p>当該授業で、障がい者と障害について、広い視点で学生間の積極的な debate を行いたい、学生の取り組み姿勢が極めて消極的な状況なので、なんとかして積極性を発揮できるようにしたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	都市形成のあゆみと都市生活	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/社会科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取り組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取り組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を取り入れたか	毎回の授業で、学生は興味をもったところや疑問について、用紙に記入して提出する。次の授業の開始時に疑問等については補足説明等をおこなうことで理解を深める。				
取り組みの効果	私語もなく、熱心に受講している。				
今後の課題	<p>人数が多く、毎回非常に多くの感想や質問が寄せられるため、全部に対応ができず、比較的質問が多かったものに対して説明せざるを得ない。</p> <p>また、当初は、この用紙で提出された感想や疑問をもとに、教室でのディスカッションをおこなおうと試みたこともあるが、「よい質問」として個人の名前を挙げられることに対して「あてられると思うと質問できない」という意見が多くあり、断念した経緯もある。</p> <p>人数が多く、所属や学年が異なる構成の授業での課題であると考えている。</p>				

授業形態	講義	科目名	生活のデザイン	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/社会科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>文章だけではなく（理論的な話）、写真・図式などビジュアルなわかりやすさ（できるだけ多くの事例）、フォントや文字の大きさ、レイアウトなど見やすさに拘った PowerPoint を作成し、授業で解説すると共に、随時、身近な問題として理解するために、簡単な問いかけを随時織り込んでおく。また、問いかけに対して考える時間を数分を与え、ノートなどに記述を促す。全ての問いかけに対して、受講学生に回答を求めることはないが、授業の進行具合により、数人に答えてもらうようにする。また、その時間に関連するビデオや DVD を魅せる場合には、動画の長さは約 25 分を超えないものとし、事前にそのビデオ内容のおさえておくべきポイントを PowerPoint で紹介しておく。また、見せるビデオ内容は、レポート課題と関連するもので、ビデオを観ないとレポートが書けないことはないが、レポートを書くときの参考になるものとする。レポートと関連づけることで、ビデオを観る意味も生まれる。ビデオ教材は、いくら内容が良くても、長いとどうしても飽きるとともに、集中力が途切れるので、長くても 20～25 分程度がよいものと思われる。事前にビデオの内容を知らせておくことで、集中力も若干向上するようになる。PowerPoint やビデオ教材だけでは、授業がつまらないものになるので、随時、関連する今日的な話題、更に突っ込んだ説明をするための板書を取り入れたり、配付資料の朗読を取り入れたり、学生が 90 分間、できるだけ授業に集中し関心をもてる様に工夫する。</p>				
取組みの効果	<p>PowerPoint（正確にはマック版 KeyNote）の作成に拘りを持つことで、生活のデザインということを教えている授業なので、多少なりとも関心があがっているものと思われる。授業アンケートなどでそのような回答をもらうことはないが（そもそも共担なので授業アンケートをとっていない）、顧問をしている関係で、ふとした機会に、総務委員会の学生から、私のこの共通の授業をとっていて、面白かったとか、パワーポイントが他の先生と違って素敵だったとか、分かりやすかったという評価を受けることがあるので、それなりの効果が出ているものと思われる。もっとも学生によるが。</p>				
今後の課題	<p>90 分という授業は単体、つまり、一日に 2 コマ程度であれば学生も集中して、話を聴くことができると思うが、学生によっては、1～5 限まで、90 分の座学を学ぶことも考えられるので、人の話を一日に 450 分聴くというのは、どの様に授業を創意工夫し改善しても厳しいものと思われる。各教員の授業工夫とは関係ないが、カリキュラムの組み方にも工夫をこらす必要は感じる。特に、私が担当しているこの科目は、資格関連科目でもなく、試験もないものなので、社会に出てから、心のどこかで思い出して、役に立つような内容のものとするべく、常に授業内容の試行錯誤を行っていきたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	遺伝子の不思議	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/自然科学科目)		受講者数	約 90 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>①授業内容の復習として、DNA や遺伝子の働きを CG による動画にしたもの(市販品)を学生に見せた。</p> <p>②アルコールを加えることによって DNA が糸状の沈殿になっていくのを授業で見せた。</p>				
取り組みの効果	<p>①毎年のアンケートでは、概ね好評を得ている。</p> <p>② DNA を目で見えるものとして実感させることができた。</p>				
今後の課題	15回の講義内容全てに対応して、このような動画資料があるわけではない。そのあたりを、どのように補填していくかが今後の課題。				

授業形態	講義	科目名	調理と健康	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/自然科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法 を取り入れたか	<p>様々な学部、学科の学生が集まる共通教育では、食品の専門用語等をよりわかりやすく理解するために、視覚教材を利用し、パワーポイントで映写しているスライドをすべてプリント化し、配布している。その際、なじみのない専門用語を覚えたり、理解するためにも、使用するパワーポイントプリントは、重要な単語や説明文を、各自で書き写すことができるよう、A4 用紙に 2 スライドまでのプリントを配布し、自ら講義ノートを完成させることで、自宅学習での復習のとっかかりとなるよう、配慮した。また、書き写す部分を多めに取り入れ、出来るだけ、自分で書き写す事で、各自が読みながら、さらに書くという操作により、内容や言葉などが印象に残るように、自ら書き込む空欄の多いプリントを作成し配布した。</p>				
取組みの効果	<p>授業アンケートでは「こんなに手がいたくなる授業は初めてだ」など、書く分量にたいする不満等が多く、もっと減らしてほしい等の要望が多かった。また、書き写す時間がとてもかかってしまい、学生からも「書く事に必死になってしまい、説明が聞き取れない」との指摘もあった。そこで、書く時間を別にとり、書き込む時間と、説明を聞く時間を区別するよう分けたが、書く時間に個人差があるため、長くなり、授業時間配分が難しくなった。そこで、年々、書き込む箇所の削減など調整を行い、プリントの配分を整えた。しかし、近年、定期テストの平均点が落ちてきていると痛感する。もちろん、受験している学生が毎年変わるために、一概に判断できないが、それでも、手が痛くなるほど書いていた年代の方が、食物に全く関係のない学部の学生が 100 点近くを取る等、平均的に良く出来ていたように感じる。</p>				
今後の課題	<p>プリントに書き込みを行う事は、ただ聞いているのとは違い、読んで書くことで印象に残ったり、意味を把握するきっかけとなったり、また、目が覚めるきっかけとなっており、途切れてしまった授業中の集中力回復にも役立っているように感じる。現在、書き込み量などを調整した結果、学生から「手が痛い」などのアンケートはほとんど見られなくなったが、テスト平均点や授業中の集中力等からも、もう少し、限られた授業の中で、どのくらいの書き込み量、また、時間など、配分を検討する必要があると感じている。</p>				

授業形態	講義	科目名	大学生活入門	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/現代トピック科目)		受講者数	約 150 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>新入生約150名、大教室での1コマの講義であったので、双方向型授業を行うため、以下のような方法を採用した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義の冒頭において、課題をできるだけ簡明に述べることに努めた。 課題：大学生として自立する。自立とは、自分で考え、他の人の考えも聞き、自分が責任を持って行動できる力を身につけることである。 2) 自分で考えることの大切さを説くため、具体例として「服従の心理に関する実験」を示した。 3) この実験にたいする学生各自の考えを短く無記名で紙に書かせ、全員に提出させた。 4) 短時間で提出文に目を通し、そのなかのいくつかの考えを学生に述べた。 5) 記載文に示された学生の考えについて私の考えを述べた。 6) 再度、課題に対する学生各自の考えを無記名で紙に書かせ、全員に提出させた。 				
取り組みの効果	<ol style="list-style-type: none"> 1) あらかじめ課題を短文に記しプリント物で示したが、これは課題理解に一定の効果があった。 2) 具体例は課題理解に一定の効果があった。 3) 考えを記載させることは課題理解に一定の効果があった。 4) 学生の記載文をその場で述べることは課題理解にかなり効果があった。 5) 双方向型授業方法としての効果はあったとしてもごくわずかであった。 6) 考えを記載させることは一定の効果があった。 				
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 課題を簡明に述べることができず、今後、講義力向上の要がある。 2) 具体例は分かりやすいと思ったが、説明不足であった。 3) 全員が多様な考えを記載したが、記載時間が短すぎた。 4) 学生の記述を読む時間が足りなかった。 5) 学生の記載文を述べたとき、学生は熱心に聴いたが、一部の記載文しか紹介できず、私の能力不足により、学生の考えをまとめることができなかった。 6) 学生はさまざまな考えを記載したが、それに応えることができなかった。 まとめ：双方向型授業として、私の能力不足、諸制約により、失敗であった。 				

授業形態	講義	科目名	大学生生活入門 (生活習慣病と食生活・ダイエット①②の2コマを担当)	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/現代トピック科目)		受講者数	約 150 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を取り入れたか	<p>多学科にわたる1年生が対象であるため、図や写真、イラストをふんだんに盛り込んだスライドを使って、健康が適切な食生活により成り立っていることを分かりやすく概説する方法を取り入れた。健康の概念には、生活習慣病の代表である糖尿病や高血圧の予防のほか、無理なダイエットにより生じる骨粗鬆症や貧血、風邪を引きやすい・胃腸が弱い等の体質改善、便秘等の予防や改善、髪の毛や肌の健康等、大きなテーマから身近な問題まで取り上げ、さらには一人暮らしの学生のための生活の知恵となるような点にまで言及し、自立した食生活管理ができるよう、気づきや動機づけを促すように工夫した。講義後は要約レポート作成を課し、提出されたレポートには、必ず一人ひとりにコメントを書き、伴走することとした。</p>				
取り組みの効果	<p>興味をもった学生は、自分の生活習慣を振り返って、レポートを書いてくれた。学生へのコメントとして、自律の精神を養うような内容を記すことに努めたが、学生からの反応は必ずしも期待どおりではなく、受けとめられ方が様々であった。</p>				
今後の課題	<p>励ますつもりで書いたコメントが、受け取り側によっては、必ずしもそうでないように伝わっていることがわかりました。ショート・コメントは誤解を招かないように書かねばならないと思いました。今回のことを教訓にしたいと思います。</p>				

授業形態	講義	科目名	大学生活入門	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (基礎教養科目群/現代トピック科目)		受講者数	約 150 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法 を取り入れたか	<p>未成年者の喫煙と飲酒問題について 2 コマの講義を担当 講義はパワーポイントで行い、DVD (動画) を使用して喫煙による健康被害の重大さを理解させる。レポート用紙の裏面を使用してノートを取らせ、講義の終了 15 分前にレポート課題を発表し、レポート作成をさせる。</p> <p>【喫煙】 喫煙は、最も依存性が高いことを理解させ、喫煙を絶対しないことを指導する。さらには、家族・友人へ禁煙を勧めさせる。講義の最後に、「タバコは、良く出来た麻薬です。」標語で締めくくる。不良の入り口はタバコから (ゲートウェイドラッグ) と、有害性を周知させる。</p> <p>【飲酒】 飲酒は 20 歳からを徹底させ、サークル活動における歓迎会などのパーティーでのイッキ飲みの禁止、急性アルコール中毒による死亡事故例を紹介し、適正な飲酒を指導する。また、アルコールパッチテストを講義中に行い、学生自身のアルコール体質を理解させる。</p>				
取組みの効果	<p>受講者は、今後、喫煙は絶対行わないことを誓い、家族の健康への配慮が芽生えることが、レポート内容から伺える。</p> <p>飲酒すると、全てのヒトが異なる酔い方があることを理解でき、人類の多様性まで言及する講義内容に遺伝学・遺伝子分野研究に興味・理解を見せる。</p> <p>イッキ飲みが習慣化している学外サークルが危険であることを理解して、入会・脱会の基準となっている。</p>				
今後の課題	<p>現在、前・後期、150名の受講人数であるが、本講義は全学生を対象に発展することを切望する。</p>				

授業形態	講義	科目名	アジアのなかのジェンダー	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (ジェンダー科目群)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>本講義では、中国、韓国、インド、ベトナムのジェンダー問題に関心を持ち、国境を越えて共通する要素は何かや異なる要素は何かについて考察し、主体的に解決策を考えたり、将来のジェンダー動向を予測できるようになることを目的としている。ただ、最初からジェンダー問題を扱っても社会情勢に関する知識が不足していれば理解が深まらなないと考え、外務省 HP 上の「国・地域」に関する情報を活用している。同 HP では、各国や地域の人口、面積、宗教、歴史など基本的な情報の他、政治や経済等情報の更新が欠かせないものも常に更新され、アップされているので、信頼でき、かつ最新の情報を授業で紹介することができる。さらに、昨年度はベトナムに渡航し、インターンシップとボランティア活動を経験してきた大英の学生に講師となってもらい、プレゼンテーション（授業）をしてもらった。活動の様子を伝える図や写真を多用したプレゼンテーションは自信にあふれ、魅力的であり、見事であった。</p>				
取り組みの効果	<p>外務省による各国や地域に関する情報については、強い関心を示す学生もいれば、関心を示さない学生もいる。しかし、どのような国や地域に行く時でもまずはそのような情報や「海外渡航・滞在」情報をチェックして、安全を優先するよう注意を促している。また、いざという時に授業で学んだことを思い出してくれればと考えている。また、学生によるプレゼンテーションについては、本授業の受講生は私自身の授業よりよほど熱心に聞き、心動かされているようだった。プレゼンテーション後の質疑応答も活発で、その後に課したレポートも全授業内で「一番の出来」であった。学生と学生の双方向の授業が非常に効果的であることを認識した。</p>				
今後の課題	<p>定員 100 名の授業であるため、双方向授業の展開は依然として難しいと感じているものの、工夫の余地はある。ただ、授業内容の充実は確約しつつ、学生によるプレゼンテーションを取り入れようと思うと、回数や時間配分等については細心の注意を払う必要が出てくる。授業で使用している教科書が無駄にならないように配慮する必要もある。学生の授業への関心を高めたり、維持したりする授業の展開は教育歴が長くなっても常にチャレンジな課題であるが、あきらめずに追求し続けたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	音楽と女性	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (ジェンダー科目群)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取り組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他 (自分発見)			
どのような方法を取り入れたか	<p>この科目は音楽を通してジェンダーの視点を考える授業である。</p> <p>16世紀、17世紀、18世紀、19世紀それぞれの時代毎に、時代が求める女性像の変化を、オペラ作品を通し考える方法を取り入れた。</p> <p>映画、DVD で作品を観る前に、作品の作曲家の人物像、原作作家の人物像、台本作家の人物像、モデルになったヒロインの話題、関心を高めるだろう取り組みを試みた。</p>				
取り組みの効果	<p>意欲、関心を示す学生は想像以上の興味を示し授業中の態度が積極的に取り組む様になったが、全く興味を示さない学生は受け身の態度が続いた。</p>				
今後の課題	<p>関心を持ってない学生にオペラ以外の教材を加え、理解できる工夫をする必要があると考えられる。</p>				

授業形態	講義	科目名	自分を変える話し方	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (キャリアデザイン科目群)		受講者数	約 50 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>共通教育科目とはいえ友人同士で受講している学生もいるので、最初は顔見知りとの気楽なペアワークでスタートすることもあるが、4回目の授業時に簡単なゲームをしながら全く新しい顔ぶれになるようペアを組み替え、その後、8回目の授業でペアから5人組に人数を増やし、なるべく多くの人たちとコミュニケーションをとる練習ができるよう工夫している。また毎時間 DVD を視聴する際に内容に関する簡単な Q & A を行い発言を促しているが、その際もアットランダムで発言を求めため、毎時間名前を記入した出席カードを回収し、教卓にバラバラに並べ替え誰があたるかわからないという緊張感を学生がもてるようにしている。</p>				
取り組みの効果	<p>授業アンケートで、「知らない人にも自分から声をかけるきっかけがつかめるようになった。」「苦手な人ともとりあえず話してみようと思えるようになった。」というポジティブな意見があり、教室という限られた空間ではあるが、クラスメートとの対話の回数を多く設けることで「コミュニケーション」へのきっかけを提供することができたと感じている。さらに、授業後半に入ると、指名しなくてもこちらの質問に自発的に回答する学生が増えてくるので「発言を促す」練習が効果をあげているのではないかと思う。</p>				
今後の課題	<p>現在感じている課題は3点ある。1. 全員が強いモチベーションをもって受講しているわけではないので、たまたま組んだペアの相手が全くやる気がなく、授業時間を無駄に過ごしたと回答した学生もいたので全員にペアに対する責任と自覚をもたせるような工夫が必要であると感じている。2. 同じ取り組み方で授業をしても成功する学期と失敗に近い状態になってしまう学期があり、受講生の雰囲気や、傾向をよく観察し、適宜方法を変えていく必要があると感じている。3. 「発言を促す」工夫をしている「話し方」の授業と言いながら、試験を筆記で実施している事に違和感をおぼえる学生もいるので、50人クラスの試験を会話形式で行うための方法を模索中である。</p>				

授業形態	講義	科目名	仕事力を考える	必選区分	選択科目
開講学科・学年	共通教育・全学年 (キャリアデザイン科目群)		受講者数	約 40 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>特徴的な方法として、次の3つを導入した。(1) 2分間スピーチ、(2) グループディスカッション、(3) コミュニケーションシートである。</p> <p>(1) の2分間スピーチは、発表者を事前に決めず、当日突然指名され、テーマは自分で自由に設定する。受講生はそのようなルールで行うことが分かっているので、学生は普段から各自が自分が話すテーマを考え、感性を研ぎ澄ますことが求められる。また、その他の学生はスピーチを聴きながら質問を考え、スピーチ終了後には質疑応答を行う。</p> <p>(2) のグループディスカッションでは、例えば主体性とは何か、主体性と自主性の違いは何かといったこの授業のテーマ(仕事力)に関わるが、しかしながらたいいては一つの正解などない問題を投げかけ、それについて話し合う。例えば、時間は1回につき約2分程度ないしそれ以下。その後、各グループから出た意見を全体でシェアする。</p> <p>(3) のコミュニケーションシートは授業の感想。そしてこれを翌週のフィードバック。殆ど白紙のA4サイズ1枚を埋めるように、授業中に考えたことや感じたこと、あるいはそれらにリンクする自分の種々の経験および人や本の紹介を自由に書く。その中から、14、5点ほど選び、それらを翌週にコメントしながら読み上げて紹介しフィードバックを行う。</p>				
取り組みの効果	<p>(1) 2分間スピーチとその質疑応答を通して、自分で考える力、自分のことばで語る力が向上し、さらに、海外ボランティアや就活その他のスピーチの内容に刺激を受けて、行動力を大きく伸ばすなど成長のきっかけを提供している。</p> <p>(2) のグループディスカッションを通じて、学生は一人で考えるより、複数で考えるほうがはるかに多くのアイデアがでてくることを実感する。いわゆる集合知の創出に出会う体験である。また、正解のない問題について話し合うことにより、考える力を鍛え、他者と話す意味を学ぶ。そして人見知りの解消または緩和。</p> <p>(3) のコミュニケーションシート記述と翌週フィードバックによって、学生は文章表現力および多様な受容と視野の広さとな気づきを獲得する。</p> <p>(4) 2分間スピーチやコミュニケーションシートの紹介から刺激を受けて、授業時間外で本や新聞を読む学生たちが増える。</p> <p>(5) 武庫女の教育理念(立学の精神と教育推進宣言等)の周知と理解。</p>				
今後の課題	<p>①時折、時間配分に偏りが生じるので、これをより適切なたちにする。</p> <p>②毎回10分以上前くらいに教室に行って、事前準備をしっかり行う。</p> <p>③親しい友人同士を離れて着席させることが徹底していないので、これができるように工夫する。私語の防止にもなるが、とくにグループディスカッションにおいて知らない者同士のほうが生産的な対話が可能になるからである。</p> <p>ちなみに、2015年度前期のこの授業では後列の数列を空席にし、それと同時に、隣同士は空席にするよう指示している。ある程度まとまって着席するほうが、すぐにグループディスカッションし易いからである。</p> <p>④立学の精神と教育推進宣言の具現化を目指し、一層その重要性を認識させること。</p>				

授業形態	演習	科目名	中国語 I	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (言語・情報科目群／言語リテラシー科目)		受講者数	約 30 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法 を取り入れたか	<p>本学の大半の学生は外国語を主専攻とするものではないことと、本学の英語以外の外国語科目には中級程度までの科目しか開講されていない現状とに鑑み、教養としての外国語学習という見地に立ち、教科書に書かれていることをなぞるだけではなく、中国語の様々な事象を日本語を含む他の言語との対比という観点から照射する内容の話を適宜盛り込み、学生の言語一般に対する興味を喚起するよう努めた。</p>				
取り組みの効果	<p>受講生は多かれ少なかれ、中国語の表面的な事象の暗記のみにとどまらず、言語一般に対する知識と視野が広まったに違いないと確信しているが、それを検証することは困難である。</p>				
今後の課題	<p>教授者である私が中国語をはじめとする様々な言語に対して一層の研鑽を積み、造詣を深めることに尽きる。「本立ちて道生ず」である。</p>				

授業形態	演習	科目名	データを活用して未来を読む	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (言語・情報科目群/情報リテラシー科目)		受講者数	約 50 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>共通教育の授業では、様々な学年、様々な学科からの受講生が集まっておりグループワークのような形態を取るのには困難である。本授業は Excel を高度に活用する授業であるので、情報 S A さんは主体的に活動してくれるが、それでも全員が十分理解して、達成感を得ることは難しい。</p> <p>そこで、座席を学科単位で大まかに決め、その中で学生たちに自分の座席を決めさせた。さらに、授業開始時にはアイスブレイクのような活動を取り入れることで、授業の中で隣どうしが教えあえる環境を作り出した。</p>				
取組みの効果	<p>なかなか全員というわけにはいかないが、「ご近所で話し合って解決しよう」というと、徐々にしかも自然に話し合い、教え合いができるようになってきた。</p> <p>毎回課題を出しているが、教え合いができるようになってから、少しずつパフォーマンスがあがってきたように見える。</p>				
今後の課題	<p>現在行っているのは、担当教員が設定した課題をどう解決するかという話し合いであるが、もう少し進めて様々な疑問や気づきなどが自然に交換できることができることができればと思っている。</p> <p>後期のこの科目では、アイスブレイクやチェックイン・チェックアウトをもっと積極的に取り入れグループとしての意識を高めることができればと思っている。</p>				

授業形態	演習	科目名	Web デザイン基礎	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (言語・情報科目群/情報リテラシー科目)		受講者数	約 55 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>機器 (パソコン) を使う演習科目の問題点には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① タイピングへの習熟度により、演習課題をこなす時間の差が大きい。 ② 実習場面での質問・疑問が、学習内容に関することに加え、機器操作に関することもあるため、多様であることに加え、同時多発的に発生する場面がある。こうした場合、学科の実習科目などでは助手等の人的サポートがあるが、共通教育では、それが期待できない。 ③ 実習の積み重ねの結果として、一定の学修成果に結び付くため、遅刻や欠席した場合、次回以降の授業についてゆくことが困難になる。 <p>以上の状況を改善するため、</p> <p>【初回の授業】 講座の目的・進め方、最終目標について説明する。併せて「遅刻 (早退)」等の扱いについて、趣旨を説明する。(60 分以上、授業に参加していることが「遅刻 (早退)」扱いする前提となること。出席点呼後の入室が授業開始後、30 分以内でも、自己申告がなければ「欠席扱い」とすること。無断退室も欠席扱いとすること。) さらに、教員への連絡方法を周知する。</p> <p>【毎回の授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 座席指定にし、授業直後、出席点呼を取る間、タイピング練習を毎回行う。 ② 続いて、前回の学習内容のポイントをスライドを用い、復習する。 ③ 続いて、今回の授業内容のポイントや操作上の注意点を説明する。 ④ 以後、教材プリントを参考に、各自が演習課題に取り組む。 ⑤ 以上の一連の学習活動が円滑に進むよう、数年をかけて教材プリントを整備し、毎回、必要部分を配布している。 ⑥ 受講生が④に取り組んでいる間、教員は机間巡視し、個々の学生の状況を把握し、状況に応じサポートを行う。また、個別的に発生する「ヘルプコール」に対しても対応する。 ⑦ ステップ③の直後に、前回欠席者には前回プリントの配布や必要ファイルの入手について、個別に対応する。 ⑧ 節目、節目ではミニテストを行い、本格的な演習課題は複数回課している。 ⑨ 科目内容が基礎的なものであるため、「質問」や「不具合時のヘルプコール」は遠慮せずに教員を呼ぶよう、繰り返しアピールしている。 				
取り組みの効果	<ol style="list-style-type: none"> ①の結果、座席指定にしたことで、仲良しグループが集まった結果、発生しやすい私語は全くと言っていいほどない。また、50 人程度であるので、実際に顔を見ながらの点呼としているので、学生のその日の状況も把握しやすい。 ②～⑦の結果、前回欠席者も含め、その日の学習活動が円滑に進んでいる。 <p>毎学期実施する授業アンケートでは、随時「ヘルプコール」への対応を行っていること、毎回の取り組み内容がプリントに記載されているため、自分のペースで取り組めることといった点を評価する意見が多い。</p> <p>演習課題はプログラムの作成が主体となるため、完成したかどうかは学生自身で確認でき、そうした経験の積み重ねが、学習への興味・関心を高め、達成感を感じていることが、アンケートの記述や課題に付随するコメントに多くみられる。</p> <p>最終課題は、学生の個々の関心に基づいたオリジナルホームページの作成であるが、課題とともに提出させているレポートからは、困難を何とか乗り切って、ホームページを完成させたときの充実感を述べたものが数多くみられる。</p> <p>また、毎回点数とはいうものの 15 回の授業全てでタイピングの練習を重ねた結果、学生のスキルは向上しており、学生自身もそのことを実感している。</p>				
今後の課題	既に数年をかけて、授業進行に関わる状況の整備に取り組んできたため、実習主体の授業であっても、一人の教員で展開できる手法は確立できたと思う。しかし、内容面での理解 (特に関連知識) の定着度の向上については、今後も工夫を重ねる。				

授業形態	演習	科目名	Excel で学ぶ基礎統計	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (言語・情報科目群/情報リテラシー科目)		受講者数	約 50 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>本科目において、情報 S A (スチューデント・アシスタント) の学生と協同して授業計画の立案および授業内容の見直しを行っている。授業前の打ち合わせでは、次回の講義内容を説明し、学生目線で説明のわかりやすさや演習の難易度について意見を求め、説明方法や演習の内容に問題があれば、改善をしてから授業に臨んでいる。また、授業後の打ち合わせでは学生の様子や態度、質問内容から改めてどの程度の理解度であったかを把握するように努めている。特に授業の内容上、Excel での演習を行うため、Excel の操作がスムーズにできているどうかを S A に確認してもらっている。それにより、円滑な授業の展開と受講学生の学習支援が実現できている。</p> <p>さらに、「イマキク・スグキク」というリアルタイムにオンラインアンケートができるホームページを利用している。あらかじめ授業内容に関する問題を用意しておき、学生に回答してもらうことで受講生全体の理解度を把握できるようにしている。そこで理解度が低かった内容については、次回の講義時に補足説明をしたり、次期の授業では説明方法を改善するようにしている。</p>				
取り組みの効果	<p>情報 S A の学生と協同した授業を実施することで、科目を開講してまだ 2 年目であるが授業内容の改善をはかり、シラバスに反映することができている。また、Excel での演習では S A の学生が入ることにより、受講学生の学習支援ができている。「イマキク・スグキク」での回答は、学生にとっても自分がどの程度理解できているかを把握することができるため、復習箇所のポイントがわかるようになっている。</p>				
今後の課題	<p>本科目は講義と演習を組み合わせた授業形態で行っているが、統計の知識を実際に活用するためには、資料を読み解いたり、現代社会を統計的な視点から考えることも必要である。社会や企業において統計データがどのように利用されているかを踏まえて、今後も情報 S A と連携しながら授業内容の改善を行っていきたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	生活リハビリテーション学	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (健康・スポーツ科目群/健康・スポーツ科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	1 回目のガイダンスで、自己紹介を含めて研究や臨床における経験を学生に紹介します。1 回目の講義の最後に用紙を配布し、受講理由と講義の中で興味を持ったこと、質問したいことを明記してもらいます。質問内容としては、日常生活の中でできるリハビリや身内の方の状況についてです。2 回目の講義でその質問に関する答えを返答します。				
取り組みの効果	受講理由や興味を聞き出すことで、学生のモチベーション向上につながる内容を把握することができる。				
今後の課題	今後の課題として講義だけでなく演習（受講生 50 人未満）を取り入れる事が望ましいと考えます。				

授業形態	講義	科目名	運動と健康の科学	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・全学年 (健康・スポーツ科目群/健康・スポーツ科学科目)		受講者数	約 100 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	授業の開始時や途中で、最新の医学・医療関連ニュースから医学・医療情報をわかりやすく紹介している。これを通じて、学生自身の身に起こる健康喪失のリアリティを実感させることで健康リテラシーを向上させるよう働きかけ、授業参加への意欲を向上する取り組みを行っている。本授業は共通教育科目のため、受講者が100名程度と比較的多いが、学生個々の血管年齢を測定したり、精神的健康パターンを抽出させたりして学生が体感しやすいよう工夫を行っている。				
取り組みの効果	実際に起こっている健康問題が身近に感じられ、医学的・科学的な根拠に基づく健康情報も交えた授業に対する関心が増しており、授業アンケートにも反映している。				
今後の課題	最新の医学・医療関連情報を絶えず入手することが教員に必要である。学生には、女子大学生として理解し、実践することが必要な健康リテラシーのアクセスしやすい情報源が必要である。				

授業形態	演習	科目名	社会で問われる「ニュース力」	必選区分	選択
開講学科・学年	共通教育・短大のみ (短大・初年次ゼミ/学び発見ゼミ)		受講者数	約 20 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者全員の大きなネームプレートを作成、机の上に置いた。 ・ラインを構築、情報を共有した。その日の朝刊一面コラム「編集手帳」(読売)「天声人語」(朝日)など読むべき記事を配信した・毎回二名以上「気になるニュース」をプレゼンさせた。その内容は新聞記事から選択、ラインで授業前日までに報告させてコピーを用意した。 ・毎回A4一枚のコミュニケーションシートを書かせて、添削。次週に手渡し、アドバイスを加えた・中盤からは毎回4人によるグループ討議を実施した。 				
取組みの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「ネームプレート」緊張感が生まれ、集中力も持続した。 ・「ライン」一人以外はラインに参加したので事前学習(新聞を読む)の教材をリアルタイムで提供でき、学生たちのニュースに対する関心が高まった。 ・「プレゼン」事前に学生が発表する記事が分かるので準備が可能だった。たとえば「夜間中学、8割が外国人」という発表の場合には、映画「学校」の一部を見せ、夜間中学の空気を感じさせることにつながった。国際ニュース(クリントン氏大統領選出馬)も多く登場し、レベルの高さも感じさせた。 ・「CS」直接手渡しすることで、添削の意味を具体的に伝えられた。 ・「グループ討議」も予想外に意見が出た。短大生にとっての就活や常識力のアップに寄与できた。 				
今後の課題	短大ゼミを通期にすれば、効果は一層アップすると実感した。短大改革のなかで検討する価値があると思った。ラインに対する警戒感を持つ学生が一人あり、不公平感をなくせなかった(クレームがあったわけではありません)。				